

LOX-index®

ロックス・インデックス

をご受検いただいた皆様へ

報告書の見方

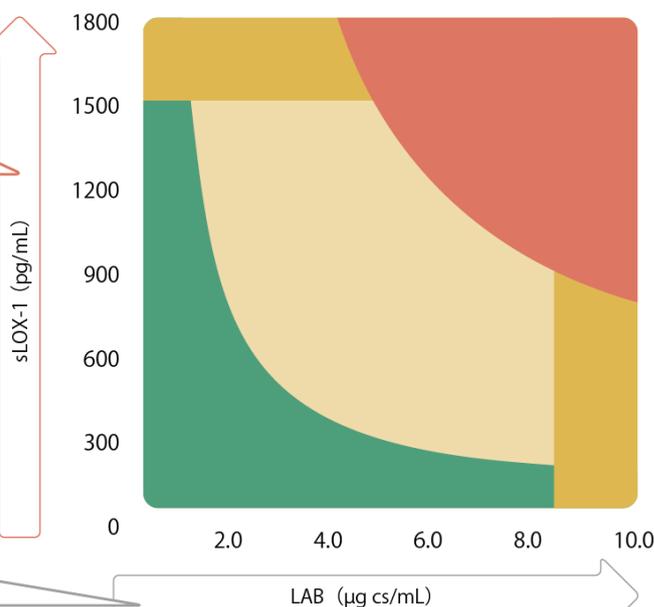
縦軸のsLOX-1の値と横軸のLAB（超悪玉コレステロール）の値をかけ合わせたものがLOX-index®の値です。LOX-index®の値をもとに高リスク群、中高リスク群、中リスク群、低リスク群の4段階でリスク群を設定しています。

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク

● 高リスク群 ● 中高リスク群 ● 中リスク群 ● 低リスク群

sLOX-1の値が高い方は、血管内の炎症が進んでいると考えられます。

LABの値が高い方は、酸化ストレスが進んでいると考えられます。



※リウマチ、妊娠中、出産後、熱がある場合は、検査数値が高く出る可能性があります。

※脂質異常症治療薬、抗血小板薬、降圧薬を服用されている場合は、検査数値が低く出る可能性があります。

（本検査は薬を服用されている現状のリスクを評価しています）



LOX-index®検査では何を測っているの？

LOX-index®では血管の中に脂質が入っていくメカニズムに着目し、超悪玉化したコレステロールと、それと結合をして動脈硬化を進行させるLOX-1というタンパク質の2項目を測定しています。

LOX-1

sLOX-1は血液中から異物を取り除く働きをしています。本検査で実際に測定しているsLOX-1はLOX-1が血中に溶け出した状態のもので、炎症で上昇することが知られています。



LOX-1が血中を漂っている異物(LAB)を認識し、捕らえます。



異物(LAB)と結合することで血管の壁にダメージを与えます。

LAB

LAB（超悪玉コレステロール）は、LDLが酸化し、より悪玉化した状態です。LABの値が高い方は、酸化ストレスが進んでいると考えられます。



LDLが活性酸素に影響を受けて、LAB（超悪玉コレステロール）に変化します。超悪玉化したLABはカラダに吸収されず、血中を漂います。

血管の炎症度合いの指標となるLOX-1とカラダのサビつき度合いの指標となるLAB（超悪玉コレステロール）の2つの指標を測定している検査がLOX-index®検査です。

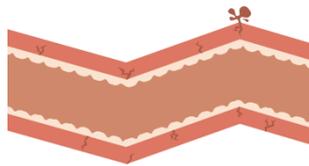


sLOX-1 が高かった方

! sLOX-1の値が高い方は、血管の炎症が進んでいる傾向があります

血管で炎症状態が進んでいくと・・・

血管壁が硬くなる



血管壁が硬くなることで、血管のしなやかさが失われます。血管のしなやかさが失われると、血液の流れが悪くなり、血圧の上昇につながります。

血管が狭くなる



血管が狭くなることで、血液の流れが悪くなり、血栓（血の塊）ができやすくなります。

改善するためには



基礎疾患あり

基礎疾患の治療に専念しましょう。

基礎疾患なし

減塩・腹八分目の食事を心がけましょう。

生活改善

禁煙と適量の飲酒を心がけましょう。

日々の生活の中に運動を取り入れましょう。

LAB が高かった方

! LABの値が高い方は、体内の酸化ストレスが高い傾向があります

酸化ストレスについて

私たちが呼吸によって取り入れる酸素は生きていく上で必要不可欠です。しかし、外的要因によって酸素の一部は“活性酸素”へと変化し、細胞や遺伝子を傷つけ劣化させる物質となります。この活性酸素が過剰に作られて処理しきれなくなった状態が酸化ストレスが高い状態とされています。

改善するためには



基礎疾患あり

基礎疾患の治療に専念しましょう。

基礎疾患なし

抗酸化物質を含む食材を積極的に摂りましょう。

生活改善

禁煙と適量の飲酒を心がけましょう。

状況把握のためにも定期的な受検をおすすめします。

LOX-index®のリスクが高くなっていないか、もしくはどれだけ改善したかを把握するためにも定期的な受検をおすすめします。



不適切な生活習慣を改善することで、動脈硬化は十分予防することができます。まずはできることから取り組んでみましょう！



検査に関する詳しい情報はこちら

数値を改善するためのアドバイスを公開中です。会員登録すると、会員限定のオトクな情報や健康コラムなどもご覧いただけます。

<https://www.premedica.co.jp/mypage/lox-index/>



PreMedica

PreMedica公式LINEができました。右の二次元バーコードから友だち追加いただくと検査詳細/会員ページへ簡単にアクセスできます！



発行：株式会社プリメディカ
発行日：2023年4月

※当検査は、研究検査項目になるため、診断目的で使用いただくことはできません。